

# 名曲の裏に作曲家の人生 プロマーのひそひそ話

クラシック音楽の祭典プロムスで演奏されるあの名曲を生んだ  
作曲家のエピソードを、オペラ歌手、榎本明子がスパイスをかけてご紹介。

## 「巨匠の妻を愛した作曲家」ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms

(1833.5.7 ドイツ、ハンブルグ生まれ 1897.4.3 オーストリア、ウィーン没)

今週はドイツ音楽の巨匠、ブラームスに焦点を当ててみますね。それも、彼が経験した苦悩の恋についてです。

ブラームスが20歳の時に、同じく19世紀における音楽の巨匠であったシューマンと、その妻クララに出会います。やがてシューマンが病に倒れてしまい、彼の家族の世話をするようになったブラームスが、14歳も年上であるクララを愛するようになるまでに、そう長い時間はかかりませんでした。

人妻であったクララ、そしてシューマンの死後は未亡人となったクララを愛したブラームスは、その状況から逃げるためか、別の女性と婚約にまで至りますが、「自由な作曲活動の妨げになる」という理由で一方的に破談にしたり、クララの娘に淡い思いを持ち続けたりします。苦悩は時に理性を奪い、人を不可思議な行動へと導きますね。

有能なピアニストで、また作曲家としての才能を持ち合わせたクララ存在は、彼の音楽活動にも影響を与えま

す。彼の作品に対して様々な助言を与えていたとのこと。ブラームスがクララと出会って以降、彼女の目を通さずして世に出た作品は、彼女の死後に書かれた2曲だけです。

さて、今週注目したいのが**交響曲第3番\* (65)**。イタリア、ドイツ、オーストリアへと避暑に出掛け、美しい自然の中で彼は心を開放し、何時にもなく軽快な曲を書いています。また今年のプロムスで既に演奏されましたが、**交響曲第4番 (38)** は円熟期の作品と言われ、同時代の作曲家リヒャルト・シュトラウスは、「巨人のような、天才的構造を持つ音楽」との賛辞を残しています。

ブラームスの音楽に耳をすませば、彼がクララに抱いていた複雑な思いの一端に触れることができるかも知れません。

カッコ内の数字は、プロムスで行われるコンサートに割り振られた番号です。プロムスに関する詳細につきましては、以下のサイトをご参照ください。www.bbc.co.uk/proms/2008

### \*ブラームスの曲からのお勧めは Prom 65

ドイツのヴィスバーデンという温泉地で書かれた、新鮮で明快な曲です。「Frei aber froh (自由だが喜ばしく)」という彼のモットーを(ファ・ラト・ファ)という音で表しています。

#### 豆知識

プロムスでピアノ協奏曲の演奏が始まる前に、ピアノを所定の場所に運び、その蓋を開けるときに観衆が発する掛け声を聞いたことはありませんか。アリーナにいる人たちが「Heave (上がる)」と言うと、ギャラリーにいる人たちが「Ho」と応じています。皆さんも一緒にいかがでしょうか？

榎本明子 国立音楽大学声楽学科卒。その後、元ロイヤル・ハウス・オペラ教育部門などでオペラ研修。蝶々夫人のスズキ役でヨーロッパを回るほか、月例Twilight Lecture Concertを企画演奏する傍ら、「自分の声と出会おう」と幅広いジャンルの声を使う人達にレッスンをしている。通称「あきゴン」。www.akiko.org.uk